

市町村母子保健計画の推進方策に関する研究
心の健康づくり対策事業—子育てグループ支援活動に関する研究—
その1：子育てグループの実態について

中村 敬¹ 小山 修¹ 斉藤 進¹ 樋口美奈² 長坂典子³ 高野 陽¹

【要約】近年、従来の地縁的住民活動とは別に都市型の地域活動として、子育てグループの活動が盛んになってきている。この活動は、一部行政の支援の影響もあって、全国的に広まりつつある。活動の特徴は同じ目的意識をもったもの同士の自助的活動とみることができる。今回は、いくつかの調査をまとめて、その実際の姿を掘り下げてみた。このグループ活動は、地域性が高く、比較的年齢の近いもの、子育てという同じ境遇におかれたもの同士が集まり、趣味的活動であったり、公共的活動であったり多種多様な活動を行っている。

これらの多くのグループは、単にメンバーが集まることで、目的が達成されていることも多く、仲良しグループ的な要素も大きい。また、中には組織化され支部をもつ大きなグループに発展しているものもあり、規模や成り立ちは様々である。このグループ活動は、その背景によりいくつかに分類することができる。最も多いのは、一般の母と子どものグループであり、比較的子どもの年齢が近いもの同士が集まって結成されており、自主的な活動を展開しているものが多い。

【見出し語】

子育てグループ 実態 活動内容

【目的】本格的な少子化時代を迎え、社会を上げての育児支援が求められている。育児と密接な関連がある保健・医療、福祉、教育の各部門は、縦割り行政の中で発展を遂げ、大きな成果を上げてきたが、近年になり各部門同士を結ぶ横系の弱さが大きな社会問題になっている。また、近年、少子化、核家族化、

社会連帯意識の希薄化により、地域の養育機能が低下してきており、社会全体での子育て支援が求められている。

厚生省は、市町村が実施する「子どもの心の健康づくり対策」事業として、心の健康づくり運動の推進、育児不安への対策、虐待・いじめ対策を挙げ、この中の育児不安への対

¹ 母子愛育会日本子ども家庭総合研究所

² 東京家政大学家政学研究科

³ 母子愛育会総合母子保健センター研修部

策として、育児不安の専門相談、出産母子に対する健全生活の支援、子育てグループリーダー育成・活動支援を掲げている。本研究班では、過去における子育てグループに関する代表的ないくつかの調査やインターネットを通して提供されている子育てグループの資料を整理し、地域における子育てグループの実態についてまとめた。

【研究方法】参照した調査や資料は表-1にまとめて表示した。検討した項目は①グループの規模、②活動内容、③バックグラウンド、④活動場所、⑤存続期間、⑥リーダーの有無とパーソナリティなどである。

【結果および考察】

I. 活動規模、活動場所、活動内容など

1) 東京都の調査(1994年)^{1) 5)}

東京都が1994年に行った子育てグループに関する調査から引用すると、調査票発送施設は958施設で、都内の子育てグループの実態把握と、子育てグループのディレクトリ集を作成することを目的として行われた。調査項目は、グループ名、代表者、連絡先、活動人数、年齢層、活動日・時間、活動目的、活動場所、活動内容、公的機関の関与・連携、アドバイザーの有無、自由意見とした。調査は1994年1月に実施され、回答は762(回答率79.5%)のグループから得られ、当時としては画期的な調査であった。しかしながら、これらの公的機関と関わりをもたない自主的なグループ活動は、一部含まれるものの把握の方法がなく、別の機会に委ねることとした。

結果について紹介すると、(1)これらの公的機関が関与していたグループは583(77%)であり、児童館が関与しているものが340(58%)と最も多く、保健所、保健相談所が143(25%)であった。(2)活動人数で見ると、親も児も10人から

20人ぐらいのグループが最も多く、(3)グループの児の年齢をみると、0歳児のいるグループは40.2%、1歳児のいるグループは62.4%、2~3歳児のいるグループは81%以上で最も多く、年長児をもつ親のグループも20%程度みられた。(4)グループの活動時間は、90%が午前中であり、活動時間の長さは2時間程度までが80%近くを占めていた。(5)活動回数は多くが月4回程度であり、曜日としては火~金曜日の「月曜日を除く平日」に活動しているグループが多かった。(6)活動場所は、東京都の調査では児童館、公園、区民館、保健所であった。これは、調査の対象になったグループの多くが、公的機関が関与していたために、活動場所として、それぞれの公的機関が提供されていたことを表していた。後で述べる育児雑誌の読者に行った自主グループに関する別の調査では、多くのグループが活動場所の確保に苦慮しているという実態を示していた。この調査における主な活動場所は、会員の自宅や公園が主で、人数規模が大きくなると、問題がさらに深刻になっていた。(7)活動内容は、情報交換・話し合いが73%、季節の行事、運動等が70%で多く、リズム・音楽、絵本、紙芝居・ビデオ・映画会、おもちゃ作り等が50%近くを占めていた。運動や文化活動を通して、情報交換や仲間作りのための活動をしていることがうかがわれた。(8)東京都の調査では、公的機関との連携は児童館が49%、保健所等が25%であった。アドバイザーがいると回答したグループは6割以上で、アドバイザーの職種は保健婦や保母が多く、医師はほとんどいなかった。

2) 保健所、保健センターにおける乳児健診における調査²⁾

結果は健診に訪れた母子のうち、育児グループへ参加していたものは約10%ぐらいであった。

参加している育児グループの実態を調べた結果では、6割が地域という地縁の関係により結成されており、活動回数は週1以上と週単位で活動を行っていた。活動場所は町会や団地の集会所、公民館、児童館や子どもセンターなどが多く、メンバー数は10組前後が大半で、メンバーは9割近くが固定または半固定化していた。保健婦などの専門家が参加していたグループは約25%であった。リーダーに関しては、約65~70%のグループでは、特定の人がリーダーを務めていたが、約3割のグループでは特定のリーダーはいなかった。活動内容は東京都の調査と変わりがなく、親子遊び、情報交換、話し合い、季節の行事などであった。活動内容は、育児グループに対するどんな調査でも共通して、情報交換、コミュニケーション、いろいろな親子遊び、ハイキングやツアーなどの季節行事、なかにはアドバイザーを招いて勉強会を開催したり、当番を決めて、自主的な勉強会をするなどの活動が主であった。

3) 厚生省心身障害研究「少子化時代に対応した母子保健事業に関する研究—民間における母子保健事業に関する研究」^{3) 5)}

この調査結果を要約すると、グループのメンバー数は20人以上と答えたものが、60%で最も多く、中には1000人規模のグループも含まれていた。これらは育児雑誌の購読者を対象にしたため、グループを広げようとする意志の強い母親達であるため規模の大きいものが集まっていた。活動の場所はメンバー数により異なるが、メンバーの家が最も多く、ついで公園、地区センターや集会所であった。また、約34%の母親は子育てグループ以外の他のサークルにも参加して活動していた。

活動回数は月1回ぐらいが最も多く、60%以上は活動に満足感をもっており、活動の内

容は情報交換、親同士の交流が最も多く、親子遊び、運動、人形劇など独自工夫を凝らしていた。子育てグループに参加したことによるメリットは友人ができたこと、育児の不安やストレスが軽減されたこと、いろいろな情報交換ができることなどであり、反面、人間関係や他人のことが気になるなど、新たなストレスも出現していた。

自主活動のグループでは、公的機関と関わりのあるグループに比べて、活動回数が少なく、多くの意見として、活動の場所の確保に苦労していた。

4) 子育てグループ参加による観察記録^{6) 11)}

調査結果をまとめると、活動の仕方はそれぞれグループにより特徴があり、戸外でのみ活動するグループもあり、父親が代表を務めるグループもあった。また、グループが長期継続し、子どもの年齢も学童期に達し、子ども中心のグループ活動から母親同士のサークル活動へと転換していくものも見られた。また、母親たちのグループへの参加も、必ずしも一つのグループ活動に止まらず、複数のグループに参加しているものも多かった。

さらに、グループ同士が合同でイベントを行うところもあり、参加した年長児が年少児の面倒をみる場面が観察されていた。概して、グループ活動に参加している母親たちは、積極的でしっかりした自分の考えをもっている人が多く、親子ともどもコミュニケーションを求めて参加している様子であった。年間数回企画するイベントには父親が参加するグループもあった。また、ユニークなグループとして、絵本の貸し出しや絵本相談を中心とした親子の交流会を結成しているグループもあり、区からの補助金で購入したものや図書館で廃棄処分されたものを修繕して使用したり

していた。

グループの卒業生の母親達が活動と一緒に参加して、育児のアドバイザー的役割を果たしているグループもある。さらに、父親たちが参加し、父親を交えた親子のコミュニケーションの場になっているグループもある。

父親が参加している子育てグループについて、実態を紹介すると、毎回の活動に父親が参加している例はまれであるが、観察調査を行った 17 グループ中の 2 グループで父親がリーダーをつとめていた。この父親は両方とも自営業であり活動に時間を割くことのできる余裕と融通性をもっていた。また、子どもと遊ぶのが好きであり、自然が好きという本人のキャラクターが関係しているようでもあった。父親が参加したグループでは、両方ともキャンプや遠い遠足等、母親だけでは無理と思われる大規模な行事を企画していた。グループ内での父親の役割は大きく、母親と異なった遊びができるなど、子どもたちに与える影響も大きいと思われた。

これらの調査や資料（表-1）でみると、子育てグループの活動は様々であるが、共通点がいくつかあり、子育てや生活一般についての情報交換、子連れで利用できるレストランやショッピング情報、託児所付きのイベントに関する情報、医療・保健・福祉機関に関する口コミ情報などが話題の中心になり、子どもの年齢が長じると、幼稚園などの教育機関に関する話題が大きなウェイトを占めるようになる。さらに、育児用品や生活用品の交換なども行われている。

Ⅱ. 子育てグループの分類⁵⁾

次のように、大きく2つに分けることができる。

*：保健・福祉関連機関が主催または後ろ盾

になっているグループ

これは保健センターなどの保健機関や児童館、保育所などの福祉機関が主催をしたり、活動の後ろ盾になって活動しているグループであり、活動場所が提供され、コーディネータや専門のアドバイザーに事欠かないなどの点で、他力的な傾向の強いグループである。保健機関が支援するグループでは、親離れせずなかなか独立してくれないといった悩みを担当の保健婦から聴くことが多い。また、児童館を中心にして、活動しているグループは、児童館の単年度事業として、4月に参加者を募りグループを結成し、一年間の活動をしているものもある。一部にはこれらの機関を活動の拠点として自主的に活動しているグループもあり、また、自治体から活動費の補助を受けて活動しているものもある。一方、これらのグループは分散したり、合併したりして、新しい自主的なグループへと発展しているものもある。

*：自主的な活動グループ

これは子育て中の母親（または両親）が、仲間を募ってグループを結成し、自主的に活動しているものである。自主グループは数人の仲良し組が集まって、サークル活動をしているものから、メンバー数も多く、組織を結成しているものまで多種多様である。また小さなグループでは、そのリーダーのキャラクターによって左右され、リーダーが交代もしくはリタイアすると解散したり、全く異なったグループとして再出発したりするところも多い。グループが解散する大きな理由は、子どもの年齢が大きくなって就学児になった、リーダーがリタイアした、地域の子どもの数が減りメンバーが集まらなくなったなどの深刻な理由もある。一方、グループのメンバー数も多く、組織化されているところでは、

リーダーが交代しても、そのグループの名称や組織は残り、のれんを継承して活動を続けているところも多い。

Ⅲ. 子育てグループの追跡調査^{4) 5) 9) 10)}

子育てグループは一般に、長期存続は難しいと言われている。この点について東京都が1996年に実施した追跡調査を紹介すると、残念ながら、1996年の調査で回答を寄せてきたグループは、1994年に把握したグループの47%に過ぎなかった。回答率が低かった理由はいくつか考えられる。一つは1994年に作成したディレクトリー集が、同じ活動をしている仲間を知ったり、連携をとったりするために役立つ面は大きかったが、反面、個人情報として悪用され、悪質なセールスや心ないマスコミに利用されたり、アンケート調査の対象として利用されたり、善意から個人情報を提供した子育てグループの面々に多大な迷惑をかけ、このことが調査に対する協力を拒まれる結果を招く、回答率が低下したとも考えられた。もう一つの理由は、すでに解散し活動を停止しているグループが多かったことが考えられた。

調査結果から、現在の活動状況をまとめてみると、現在も活動していると答えたグループは71.1%で、活動を一時中止していると答えたグループは3.7%、解散したと答えたグループは19.1%であった。アンケートの回収ができなかったグループのうちで、解散したグループがどのくらいあるか不明であり、正確なところはわからないが、この調査結果から類推すると、5～6割ぐらいのグループは活動を継続しているものと考えられた。活動を一時中止しているものも含め、グループが解散しているものの理由についてまとめてみると、子どもの成長にともないグループ活動を

を停止したところが最も多く、33.6%を占めていた。児童館など公的機関が主催しているものは、その事業の終了にともない解散している(単年度事業)ものもあった。また、他のグループと合併したため解散したグループは、解散したグループうちの約12%を占めていた。また、人数が集まらない、対象児がいないなど子どもの数の減少が理由と考えられたものが、約13%であった。メンバーの転居・転出によるものが約9%を占めており、リーダーがいないことが理由と答えたものが約6%を占めていた。さらに、公的機関のバックアップを持っているグループと自主的活動のグループを比較してみると、アンケート回答者のうち、公的機関のバックアップのあるグループは77%、自主グループでは60.9%が存続していた。

次に、継続して活動している249グループの変容についてまとめると、人数規模は10～30組を維持しており、とくに拡大も縮小もせず、一定の人数規模を保っていた。グループの子どもの年齢構成を検討してみると、0歳時点で参加し、4～5歳で卒業していくパターンが形成されていることがわかった。このことは、グループは存続するが、メンバーの入れ替えが頻繁に行われていることを示していた。自主活動の51%のグループで、同じ人がグループのリーダーを継続して務めていた。

グループの活動時間や活動時間帯はほぼ同じスタイルを保っており、活動回数は前回目1回程度であったが、月4回程度に増加していた。このことは、活動がより活発化してきていることが示唆され、活動場所などの確保が容易になったことが最大の要因と考えられた。継続して活動しているグループは、単に仲良しグループではなく、しっかりとした目標をもっており、地域に根ざした組織的活動

になっていた。

IV. その他のグループ活動⁵⁾

最近では当番制により、交代でグループ保育をする自主保育グループも出現している。これは、子育ての合間に自分自身の時間を見たいという母親たちの思いから出た工夫である。傷害などの事故に対する保証として保険にも加入し、自治体から補助金の交付を受けて活動しているグループもあるという。

また、子育てグループは、単なる仲良しグループとの境はなく、4～5人の子育て中の友人が集まって、特別なリーダーをもつこともなく、ただ、ときどき集まって、四方山話に花を咲かせ、いろいろな情報を交換したり、交代で子どもを預かったり、助け合って子育てをしているグループとは言えない小さな集まりが、巷には多いことも知っておく必要がある。このようなつき合いをしている母親達に尋ねてみると、何となく集まって話をすることで、ストレスが解消され、子どもについての不安がなくなると述べている。彼女たちは、これを「子育てグループ」とは呼んではいないし、単なる仲の良い友人の集まりと考えている。

V. リスクポピュレーションのグループ

上に述べた子育てグループは、一般の親子で結成されている。これとは別に疾病をもったり、特殊な状況におかれている親子で結成されているリスクポピュレーションによるグループも地域で活動している。ダウン症の子どもと両親の集まりや、障害をもった子どもと両親のグループ、多胎の子どもと両親のグループ、口蓋裂の子どもと両親のグループ、在日外国人の育児グループまたは在日外国人を交えたグループ、未熟児など周産期のハイ

リスク児と両親のグループなど多くのものがある。

これらのリスクポピュレーションのグループでは、特定のアドバイザーが関与することが多い。一般の子どもたちと異なり、その疾病や状態に詳しい専門家の助けを必要とする。筆者が関係している地域の未熟児をもつ親の会は、圏域保健所が仕掛け人になり、発足したばかりであるが、普通の子どもと違う身体的な問題を抱えており、一般の母と子どものグループとは別に、個々の不安に対して専門家のアドバイスを求めている。

VI. グループの発足の経緯とリーダーの特性

先に述べた子育てグループの観察調査から、各グループの設立経緯とリーダーの特性について、表-2にまとめた。⁶⁾

- リーダーの役割はグループにより異なり、
- (1) リーダーのリーダーシップにすべてを依存しているグループ、
 - (2) 比較的規模が大きく、組織化が進んでおり、執行部を会員の互選で決定し、民主的な運営を図っているグループ、
 - (3) 規模が小さく、リーダーは交代制で会員の互選により選出し、会員全員がサポートして、主として話し合いにより円滑運営を図っているグループ、
 - (4) 小さな仲良しグループで、特別なリーダーというようなものはなく、誰かが世話役を引き受けている程度のものなどである。

リーダーに適した人となりは、明るい性格の持ち主で、暖かみがあり、周囲との協調性がよく、多くの人の意見を聞きまとめられる能力をもつ人で、行動的で何事にも労力を惜しまず、人の面倒見がよいタイプの人であり、さらに、創造性が豊かで工夫が上手な人と要約される。加えて、天性備わった「人に好か

れるキャラクター」の持ち主でなければ務まらない。単に頭脳明晰で、活動的であるだけでは、リーダーの役割を果たせない。さらに、職場の組織とは異なり、権力指向が強く、独断性の強いリーダーは受け入れられない。

また、リーダーに適した職種が論議されることもあるが、これはパーソナリティーの問題であり、その人の持った職種や経歴、ましてや専門性ではない。われわれは、つい母子保健に関する知識をもった専門家を最適者と判断しがちであるが、これは大きな間違いである。専門職がよりよいリーダーシップを発揮でき、育児やその他の生活情報を正確に伝え得るものとは考えられないからである。

しかしながら、グループの中に、保母、保健婦、心理技術などの専門職が当事者として、メンバーに加わっていると、アドバイザーとして、グループ活動における重要な役割を果たすことができる。

Ⅶ. 広報および情報誌の作成⁵⁾

多くのグループで機関誌や情報誌が作成されている。これはメンバー同士のコミュニケーションと子育てに役立つ情報を収集した機関誌や会報を発行しており、単なるノートの回し読みなども含めると、殆どのグループで行っている活動である。

共通点は子育て中に利用しやすいレストランから公共の施設まで、多彩な情報を収集してマップを作成している。これには、グループの規模が関係し、組織化した大きなグループでは、会員が足で集めた豊富な地域の子育て情報が掲載されている(表-3)。

小さな仲良しグループでは、ノートの回し読みをしているところもあるが、大きく組織化されたグループでは定期的に機関誌が発行されている。

Ⅷ. 子育てグループ存続の要件

子育てグループの追跡をしてみると、大きく分けて次の4つがある。

- 1) 目的を達成して解散するグループ(多くは同年の子どものグループで、子どもの幼稚園等の入園、母親の就業などにより解散)。
- 2) リーダーも含めて、メンバーが入れ替わりながら、継続していくグループ
- 3) 同じリーダーに率いられて、長期間継続して活動しているグループ。
- 4) いったん解散し、新しいグループとして新発足するもの(メンバーやリーダーが入れ替わる)。

同じグループが継続して活動するためには以下のような要件が必要になる。

(1) 人望あるリーダーのいるグループ

長期であれ、短期であれ人望のあるリーダーがいるということがグループ存続の大きな要件になる。

(2) 特定の目標をもったグループ

活動目標がしっかりしているグループは、長期にわたり存続するようである。絵本づくり、手作りおもちゃ、よい図書の普及、生の演劇、公園づくりなど一貫した目標をもって賛同者が集まるグループは、人が交代しても継続して活動を続けており、次々に後輩に受け継がれている。

一方、仲良しグループ的要素が強く、同年の子どもをもった親たちが集まり、その年代の子育てを中心に活動してきたグループでは、子どもの成長や、親の就業など生活環境の変化により、2~3年で解散するものが多い。

(3) 組織化されているグループ

人望のあるリーダーが長期にわたり、グループをまとめていくものもあるが、最大の要因はグループの組織化が進んでおり、リーダ

一も役員も会員の互選により選出され、定期的に、または前任者の辞任により改選が行われ、全会員の意見が尊重され民主的な運営が行われていることである。このようなグループではメンバーも次々に交替するが、グループは組織として長期存続している。

【まとめ】

1) 子育てグループは、自助的グループ活動であり、その生い立ちや目標、バックボーンなど様々であり、地域性が高く、比較的年齢の近いもの、子育てという同じ境遇におかれた当事者同士が集まり、趣味的活動であったり、公共的活動であったり多種多様な活動を行っている。

2) 活動の規模をみると、メンバーは10～30組の親子であり、週1回程度の活動が普通である。活動場所としては公的機関を活用して

いるグループが増加してきている。活動の基盤は情報交換、親子遊びなどを中心とした活動であり、親子で楽しめる季節の行事や勉強会なども盛んに企画されている。

3) リーダーに適した人となりは、明るい性格の持ち主で、暖かみがあり、周囲との協調性がよく、多くの人の意見を聞きまとめられる能力をもつ人で、行動的で何事にも労力を惜しまず、人の面倒見がよいタイプの人であり、さらに、創造性が豊かで工夫が上手な人と要約される。加えて、天性備わった「人に好かれるキャラクター」の持ち主でなければ務まらない。

4) 長期存続するグループの要件は、人望のあるリーダーがいるグループ、しっかりした活動目標をもったグループ、組織化されているグループである。

表-1：研究に利用した調査および資料

- 1) 東京都母子保健サービスセンター編：東京の子育てグループ、1994年調査
調査の方法は、東京都内の保健所 70 力所(母子保健法改正前)、保健相談所 42 力所、市町村の保健センター・健康会館 41 力所、市町村の児童館 569 力所、公民館 106 力所、区民館 66 力所、社会福祉協議会 64 力所が掌握している子育てグループを対象としてアンケート調査を行った。
- 2) 武田 文他：都市部における育児グループ参加に関する研究、日本健康教育学会誌、2(1)、1995年
この調査は東京都区部の保健所および保健相談所4力所と埼玉県南部3市の保健センターにおける乳児健診の場を使って、1993年に実施されたものである。
- 3) 中村 敬 長坂典子：「民間における母子保健事業に関する研究—自主子育てグループの活動について」、厚生省心身障害研究「少子化時代に対応した母子保健事業に関する研究」報告書、1994年
育児雑誌の投稿欄に記事を寄せてきた300件の自主活動のグループにアンケート用紙を送付し、活動に関する実態調査を実施した。
- 4) 樋口美奈：育児における子育てグループの役割に関する研究、東京家政大学家政学研究所修士論文、1996年度
この調査は、東京23区内の子育てグループ17グループの活動に、調査者が数回ずつ参加して得た観察記録をまとめたものである
- 5) 東京都母子保健サービスセンター編：都内子育てグループの追跡、1997年
これは東京都母子保健サービスセンターが、1994年に把握した子育てグループについて、約2年10カ月後の1996年に追跡調査を行ったものである。この調査は、1994年に把握したグループのその後の変容についてまとめたものである。
- 6) 青森県のホームページ：青森県の福祉のページ、子育てサークルリスト
<http://www.pref.aomori.jp/elfare/child/circle/f-list.html>
- 7) Woman's online mediaのホームページ、子育て分科会のページ「子育て情報誌一覧」
<http://wom.vcom.or.jp/j/KiDS/index.html>
- 8) 子育てサークル「ひまわり」ホームページ、おすすめサークルのページ
<http://www.gld.mmtr.or.jp/~makomi/>
- 9) 子育て支援センター「川西保育園」ホームページ、子育てネットワーク
<http://www.d1.dion.ne.jp/~kawanisi/index.htm>
- 10) ホームページ「ぶくぶく」、図書館のページ、全国のお母さんのサークル
http://mixj.met.or.jp/kids/lb_index.html
- 11) 全国子育てサークルガイド：東京サークルネット編

表-2：グループ結成の経緯とリーダーの特色

グループ	グループ結成の経緯とリーダーの特色
グループA	発足動機は公園で子どもを遊ばせていて知り合い自然に集まるようになった。リーダーは前任者が転居して辞任したため、現段階では全員が会の運営にあたっている（子ども30人0～6歳、親15人）。
グループB	公園の改修計画を機に会が結成された。男性がリーダーを務め、温厚で意見がはっきりしており、他の母親たちを引っ張っていく力がある。男性ならではの屋外のイベントを企画している。リーダーの交代はない（子ども25人6歳以上、親20人）。
グループC	他のグループを卒業した仲間が集まり新たにグループを結成した。リーダーは性格が明るく、面倒見がよく、人に好かれるタイプで他のグループ活動にも参加しており、活動的な人である（子ども24人6歳以上、親15人）。
グループD	区主催の子育て講座から同じ方面に住む親子が集まり結成された。リーダーはグループ内で一番若い母親がリーダーに互選されている。転居になどによる交代があるとのこと。運営に関してはメンバー全員がリーダーをフォローしている（子ども22人1～4歳、親16人）。
グループE	区主催の手作り布絵本講習会から発足した。リーダーは1～2年ごとに交代しており、互選で決められている。布絵本やおもちゃの制作が主で、目的がはっきりしており、組織的にもまとまっている。会計など他の役員は毎年交代で分担している（親10人）。
グループF	他のグループの規模が大きくなりすぎたため、そこから分かれて結成された。リーダーは明るくしっかりしていて、周囲との協調性が高い。会の存続のために引き受けたという。人数の多いグループだが、うまくまとめ上げている（子ども32人、親30人）。
グループG	この会は20年という伝統があり、リーダーは母親歴30数年というベテラン主婦で、現在は祖母でもある。この方は創設以来リーダーを務めており、各種の講習会にもよく出席し、勉強を怠らない。若い母親たちにアドバイザーとして慕われている。この会は固定された集会所を拠点にはば広い活動をしている。保育区活動や専門家を招いて育児相談会や勉強会をしている（親26人、子ども20人0～4歳）。
グループH	近所の砂場に集まる親同士の集まりから発展、人気があるため入会制限もしているとのこと。リーダーは代々入れ替わりで受け継がれている。現在のリーダーは知的な人で、このグループ活動以外にのカルチャースクールに通ったり、区の講習会に出席したり、活発に活動をするタイプである。グループをてきぱきとまとめている（親30人、子ども35人2歳児）。
グループI	創設者が近所の仲良しグループを誘って発足したとのこと。メンバーそれぞれの能力・特技を生かして活動しており、リーダーがうまくコーディネートしている。観察記録によると、人の調整・起用に優れているタイプと思われる（親20人、子ども40人0～4歳）。
グループJ	区主催の子育て講座を受講したメンバーが集まって発足した。リーダーは明るく、あっさりした性格で、よく気が利き、大人数でもうまくまとめて活動していた。このグループは残念ながら、子どもの成長にともない子どもの入園や親の就業により、参加人員が減少し解散することになった（親40人、子ども20人1～3歳）。
グループK	区主催の子育て講座で知り合いグループを結成した。リーダーは数年ごとに交代している。特別な任期はさだめていないが会員の互選により決定している（親16人、子ども18人1～2歳）。
グループL	九州からスタートした劇場運動の一つとして発足したグループで親子合わせて1400名になるという。リーダーはグループの運営委員会を経て選出されるとのこと。現在は、2児の母親で他のグループにも参加している人望厚く、行動的な人とのことである。

表-3：地域密着子育て情報誌一覧

県	情報誌名	グループ名	エリア
青森	子連れ DE Skip	Activeマミーズ	青森県内
山形	MAんMA	MAんMAくらぶ	山形市とその近郊
宮城	子連れママの気晴らしマップ	AMC	仙台市およびその周辺
群馬	いきいき子育てシリーズ	べばーみんとかんぱにー	群馬県
埼玉	埼玉子育てマップウイスママ	ぶりまべーら	埼玉県
神奈川	ままとんきっず	タママ・タイム・カンパニー	川崎市・横浜市
神奈川	元気な親子のえんじえるまっぶ	えんじえるまっぶの会	横浜市
神奈川	HAMAP	ハマジャリ企画	横浜市
神奈川	GREEN KIDS	プレ幼稚園マザーズ2	横浜市
神奈川	都築区・青葉区周辺幼稚園情報		横浜市
神奈川	S-MAP	トランタン新聞社	全国
神奈川	トランタン新聞		横浜市
神奈川	いずみっくわーど	とことこ編集委員会	横浜市
神奈川	とことこ	やんちゃマップ事務局	海老名市周辺
神奈川	やんちゃマップ	そらまめカンパニー	新潟県
神奈川	親子で楽しむいきいきガイド	空飛ぶらくだ	静岡県中部地区
新潟	欲張りママの静岡便利ノート	浜松子ども情報の会	静岡県東部
静岡	浜松こども情報	ネット袋井	静岡県中遠地域
静岡	ひまわりキッズレディース	らくだプレス	静岡県志太・榛原地区
静岡	マザーワート	MIC	愛知県
静岡	名古屋エンジョイ子育てガイド	パワーアッププランニング	京都およびその周辺
京都	京都子連れパワーアップ情報	くらむぼん出版	関西
大阪	いきいきママの情報ヒタミん剤くらむぼん	おはいずりリングりんくす	奈良県
奈良	奈良らぶりいママ情報	オーブンセサミ	赤穂市、相生市を中心とした兵庫県西部
兵庫	かんがるーポックAKO	ママ徳島子育てネットワークくすのき	徳島県
徳島	徳島いきいき子育て情報Enjoy!	(有) フラウ	福岡県
福岡	子づれ DE CHA CHA CHA	ちゃんぼん倶楽部	長崎県
長崎	長崎育児情報誌ちゃんぼん倶楽部	こだまり	那覇市とその周辺
沖縄	こだまりママおたすけ本那覇版		



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



【要約】近年、従来の地縁的住民活動とは別に都市型の地域活動として、子育てグループの活動が盛んになってきている。この活動は、一部行政の支援の影響もあって、全国的に広まりつつある。活動の特徴は同じ目的意識をもったもの同士の自助的活動とみることができる。今回は、いくつかの調査をまとめて、その実際の姿を掘り下げてみた。このグループ活動は、地域性が高く、比較的年齢の近いもの、子育てという同じ境遇におかれたもの同士が集まり、趣味的活動であったり、公共的活動であったり多種多様な活動を行っている。

これらの多くのグループは、単にメンバーが集まることで、目的が達成されていることも多く、仲良しグループ的な要素も大きい。また、中には組織化され支部をもつ大きなグループに発展しているものもあり、規模や成り立ちは様々である。このグループ活動は、その背景によりいくつかに分類することができる。最も多いのは、一般の母と子どものグループであり、比較的子どもの年齢が近いもの同士が集まって結成されており、自主的な活動を展開しているものが多い。